



経済日誌

2024年4月15日～2024年5月14日の主な出来事(新聞記事等より)



4.17 震災から8年

2度の最大震度7に襲われ、県内で震災関連死を含む273人が犠牲となった熊本地震は14日に前震、16日に本震から8年を迎えた。県は5日、創造的復興に向けた重点10項目について「めどがついた」として、進捗を定期的に確認してきた復旧・復興本部会議を終了。10項目のうち、計5項目を「達成」と位置付けた。

4.18 県内初 eスポーツ専門高校 開校

ゲームのプレイヤーやクリエイターなどを育成する「eスポーツ高等学院 クマモトeスタジアム」が、熊本市中心部に開校した。熊本eスポーツ協会によると、熊本県内初のeスポーツ専門高校。専用パソコン20台を備える。熊本校は約70人が活動でき、大会や体験会なども開く予定で、eスポーツの聖地としての盛り上がりが見込まれる。

4.24 熊本空港に「SDGsパーク」

熊本国際空港は、2期工事エリア「そらよか」の概要を発表した。ビジターセンターの一区画に、SDGsを学ぶ「教育テーマパーク」を肥後銀行が開設し、運営を担う。同行がビジターセンターの一部を賃借し、主に修学旅行や社会科見学で訪れる県内外の児童生徒を対象に、ワークショップや展示を通じた学びを提供する。

4.25 以降は会員専用ページにて公開しております。

経済界有志らでつくる「人口戦略会議」は、2025年度以降の人口減少を抑制する観点から「消滅可能性自治体」を公表した。熊本県内からは天草市や青北町、球磨村など全自治体の4割に当たる自治体が該当する。球磨村は、消滅可能性自治体数が最も少なく、自立持続可能性の割合も高い傾向にある。

[ご入会はこちらから](#)

4.26 GW海外旅行 人気は台湾

コロナの「5類」移行後、国内では海外旅行の需要が回復している。熊本県内の旅行会社によると、コロナ前は来

5.1 県人口170万人割れ 半世紀ぶり

熊本県の総人口が4月1日現在の推計で170万人を下回った。1年前と比べて1万616人減の169万8145人（男80万5737人、女89万2408人）となった。170万人を割り込むのは1975（昭和50）年8月以来で約半世紀ぶり。少子高齢化が進み、ピークだった1981（昭和56）年からは20万人余り減少している。

5.3 県内「人手不足」75%

熊本商工会議所など熊本県内の5つの経済関係機関が、県内の中小・小規模事業者を対象に初めて実施した人手不足に関するアンケートで、「人手不足感がある」と答えた企業が75%に上った。業種別にみると、製造が83%と最多。建設が80%、サービス70%、流通67%となり、4業種すべてで50%を大きく上回った。

5.5 八代港 経済効果2215億円

国土交通省九州地方整備局は、八代港の貨物取り扱いなどによる経済効果が2021年の1年間で2215億円に上ったとする初の調査結果を公表した。波及先は、50.5%の1119億円が八代市内で、八代市を除く熊本県内が35.2%の781億円。県内への波及は8割を超えており、国交省は「地域の雇用や経済活動に対する貢献は大きい」としている。

水俣高校 半導体専攻科

熊本県教育委員会は、水俣高校に2025年度、新たな専攻科として半導体専攻科を設置する意向を明らかにした。県教委によると、半導体について学ぶ専攻科を設けるのは、県内の高校で初めて。水俣高は昨年11月、人材育成などを目的に水俣市、半導体関連企業と連携協定を締結。地域のニーズに応えながら、定員割れ解消や高校の魅力向上につなげる狙いがある。

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)